

地元出身者による地域内起業のプロセスに関する研究 -高校生向けプログラム開発への応用可能性-

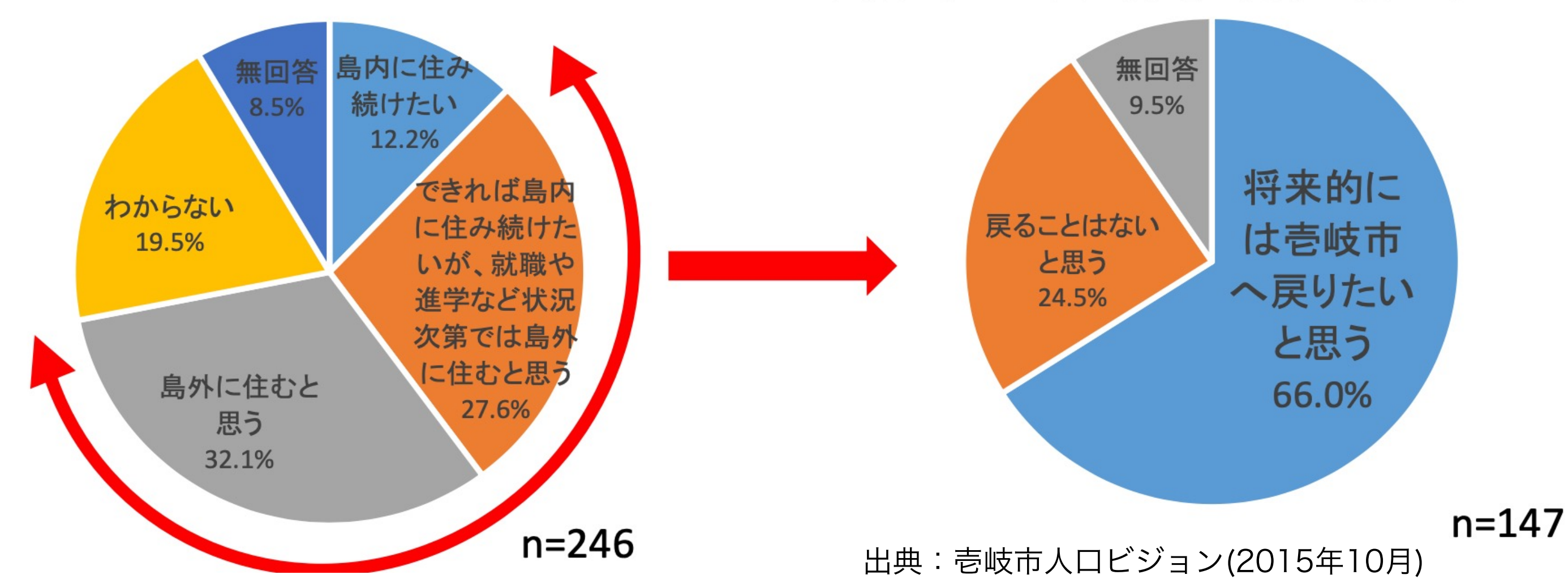
修士課程 2 年 森下 祐樹
玉村雅敏研究室

1. 研究背景

➤ 日本の地域は、若年層を中心に都市部への人口流出が続き、人口減少、人材・後継者不足、地場産業の衰退など複数の課題に直面している。研究対象地域の
吉崎市は離島環境であり、高校卒業後は島内就職(約5%)を除いては、進学・就職も含め島外へ転出する実態がある。近年、高校、中学の段階から福岡市や島外の学校に進学するケースも見られ、転出する時期も早期化している。

➤ 島外居住予定者の66%が「将来的には吉崎市へ戻りたいと思う」という回答をしているものの、「希望する勤め先がない」ことが最も大きな不安要素となっている。現状では島外転出後の全体的な動向は吉崎市としても追跡できておらず、地元出身者との関係性を構築するプラットフォームが存在していない。

4)卒業後の吉崎市居住 5)将来の吉崎市居住意向

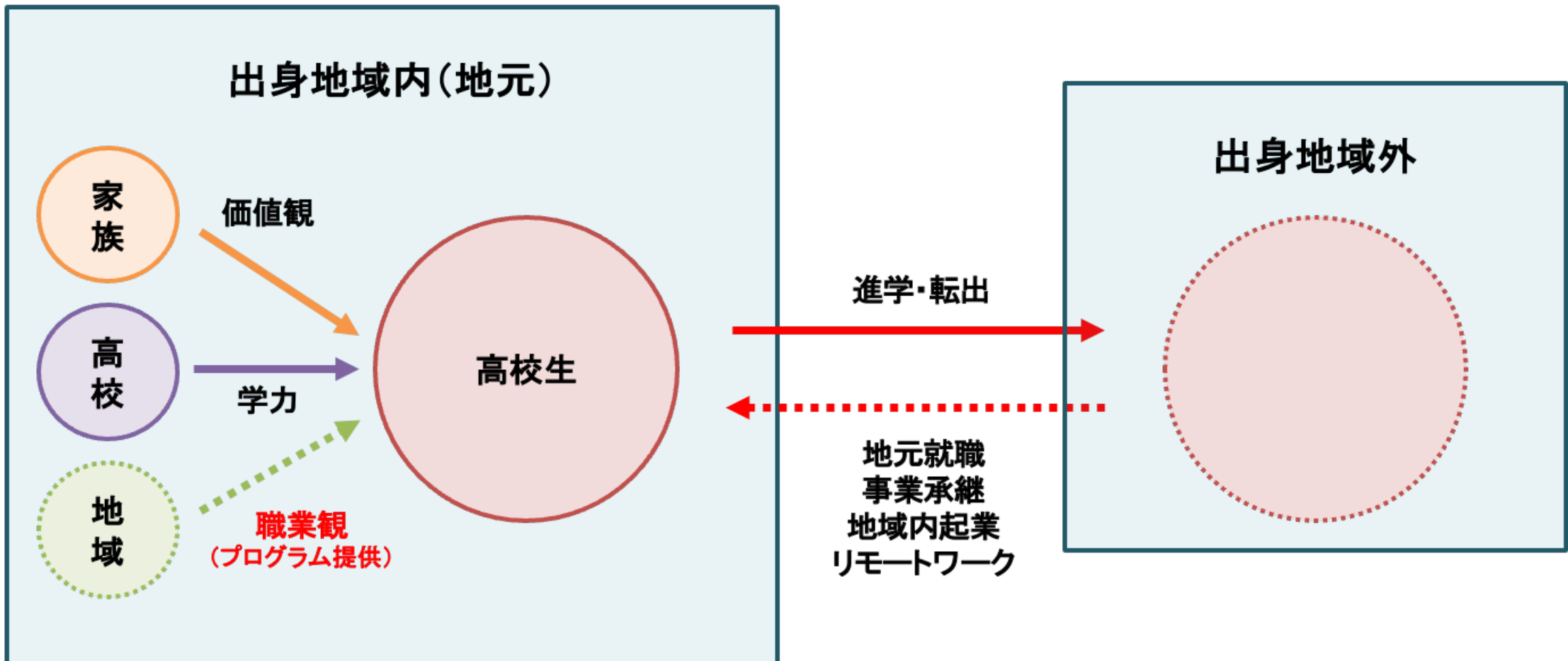


島外転出後に地元に戻りたいと思った時に、地元に戻るイメージが持てる高校時の活動が求められる

3. 研究の全体像

<研究の全体像>

- ・商業高校3年生10名を対象とした起業体験プログラムを開発
- ・地域が高校生に対してプログラム提供することが与える影響



リサーチクエスチョン：

A. 地元での地域内起業を実現するまでのプロセスはどのようなになっているのか？

B. 高校生は地域での実践活動を通して、地元に対する意識にどのような変容が見られるか？

仮説：

A. 島内居住時に、実際に地域内起業を実現した家族以外の大人による影響を受けている

B. 将来的な地元居住希望について、より若い時点からの地元居住希望が高まる

仮説検証方法：

A. 地元での地域内起業に至ったUターン経験者に対して、半構造化インタビューによる質的調査を行い、結果をM-GTA分析を行いモデル構築を行う。

B. 開発したプログラム参加者に対する前後比較アンケート調査、インタビュー調査により検証

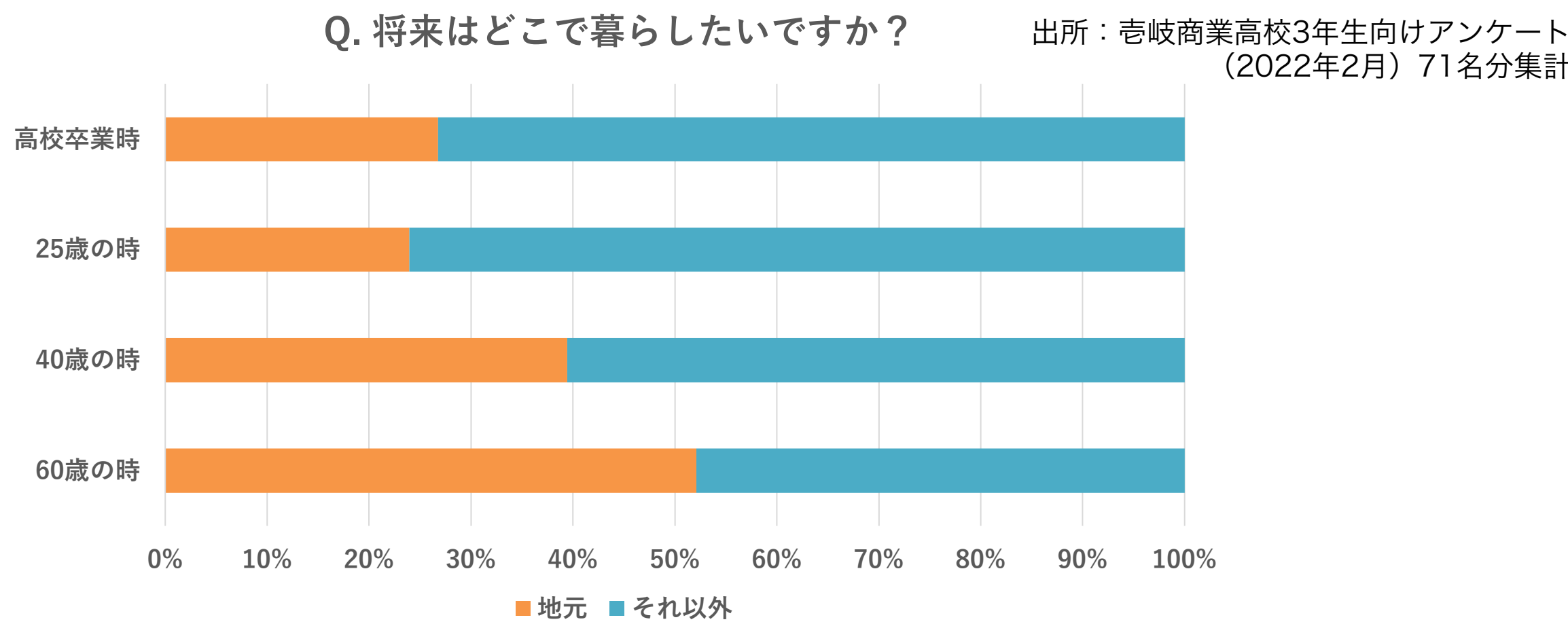
5. 現時点の研究成果（プレ調査結果より）

出所：吉岐商業高校3年生向けアンケート（2022年2月）71名分集計

【高校卒業後の進路別】将来的な地元居住希望

	人数	高校卒業時	25歳の時	40歳の時	60歳の時
4年制大学	2	0	0	0	0
短期大学	6	0	0	0	0
専門学校等	26	1	2	10	13
就職	36	18	15	17	23

➤ 進学予定者の将来的な地元への居住希望が著しく低いことが確認できる。先行研究とも関連した結果として、高校卒業直後に就職しない限り、地元回帰は難しいと考えている傾向が見られる。



➤ 地元に住みたいと希望する割合に対して、実際に住みたい場所として吉崎市を上げる割合はそれを下回っており、年齢が若い時ほど乖離が大きく見られる。その乖離の要因として、就職先希望が島外にあることが考えられる。

2. 先行研究レビュー

1. 進学校間を比較すると、A校において、「戻りたい希望が少しある、あまり戻りたいとは思わない」生徒が有意に多い。B校においては、「戻りたい希望が強くある」生徒が有意に多くなっている。このことから進学校では、Uターンを含めた地域志向度と学力に負の相関がありそうである。（北山, 2021）

表4 学力と地域志向度のクロス集計表

(単位：人)		地 域 志 向 度				
		地域に残りたい	戻りたい希望が強くある	戻りたい希望が少しある	あまり戻りたいとは思わない	戻りたいとは思わない
学 力	A 校	**▽ 9	17	**▲ 93	**▲ 102	32
	B 校	**▽ 11	**▲ 18	47	43	25
	C 校	**▲ 56	7	*▽ 30	**▽ 22	22
	D 校	**▲ 61	**▽ 2	*▽ 33	**▽ 24	18

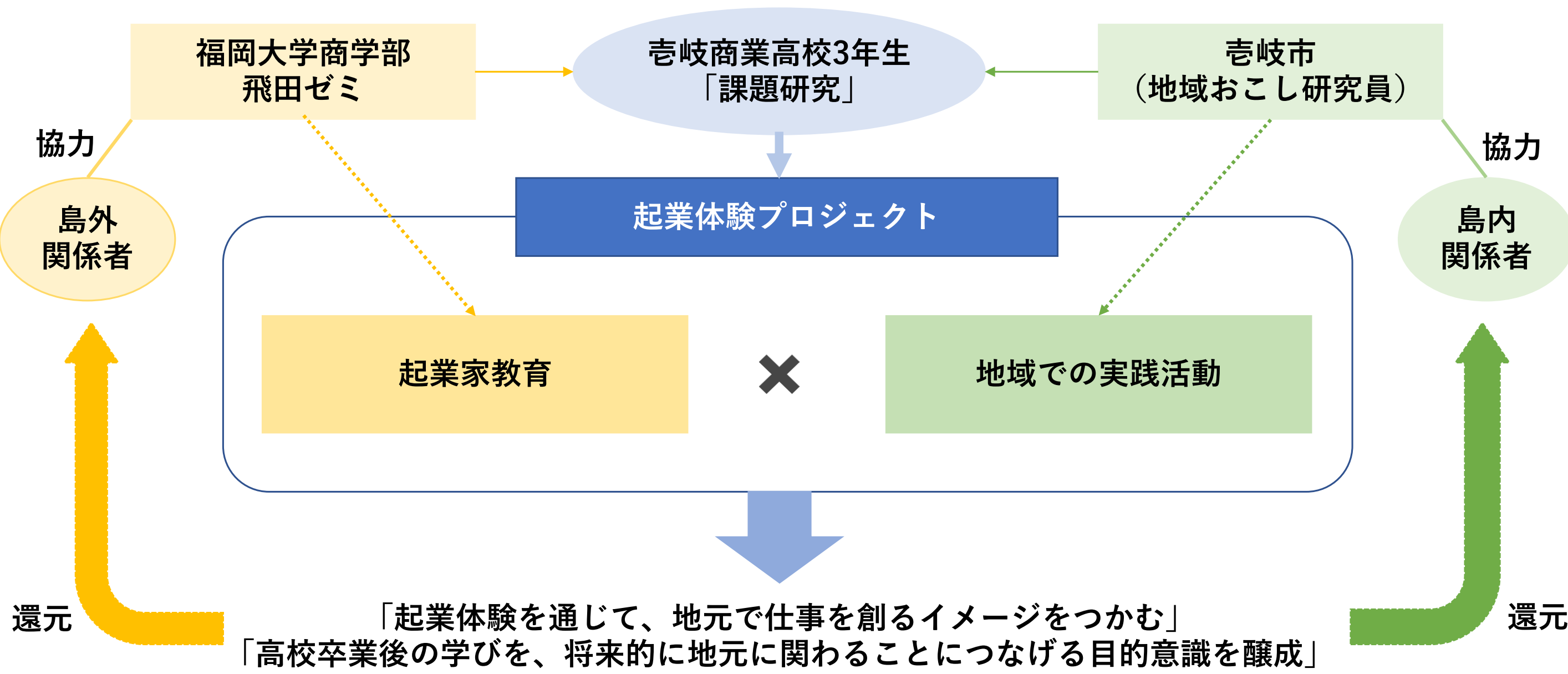
(*p<0.10 、 *p<0.05 、 **p<0.01 、 ▲有意に多い、 ▽有意に少ない)、サンプル数 N=672、有効回答率：92.2%

出典：北山 大地, 地方都市における高校生の地域への愛着・Uターン意識・学力の3関係
→X地域の地方創生戦略における高校生の意識調査→（2021）

2. 例えば、庄内以外での居住経験がある母親や、学歴の高い母親は、子どもへの残留希望割合が低い。そうした母親にとって、子どもの将来の活躍の場として庄内地域は積極的に期待を抱けない何らかの理由があると考えられる。（山口, 2017）

「学校（学力）」や「親」と地元に戻りたい希望には負の関係が見られ、異なる切り口が求められる

4. 開発中のプログラム全体像



【プログラム参加者】

・吉岐商業高校3年生10名 将来的な地元との関わり方が見える

【プログラム企画・運営者】

・吉岐商業高校
・吉崎市（地域おこし研究員）
・福岡大学商学部飛田ゼミ

【プログラム協力者】

・勝本浦まちづくり協議会
・島外アパレルショップ
・島内飲食店（パン製造、珈琲焙煎所）
・島内交通事業者（バス、二次交通）

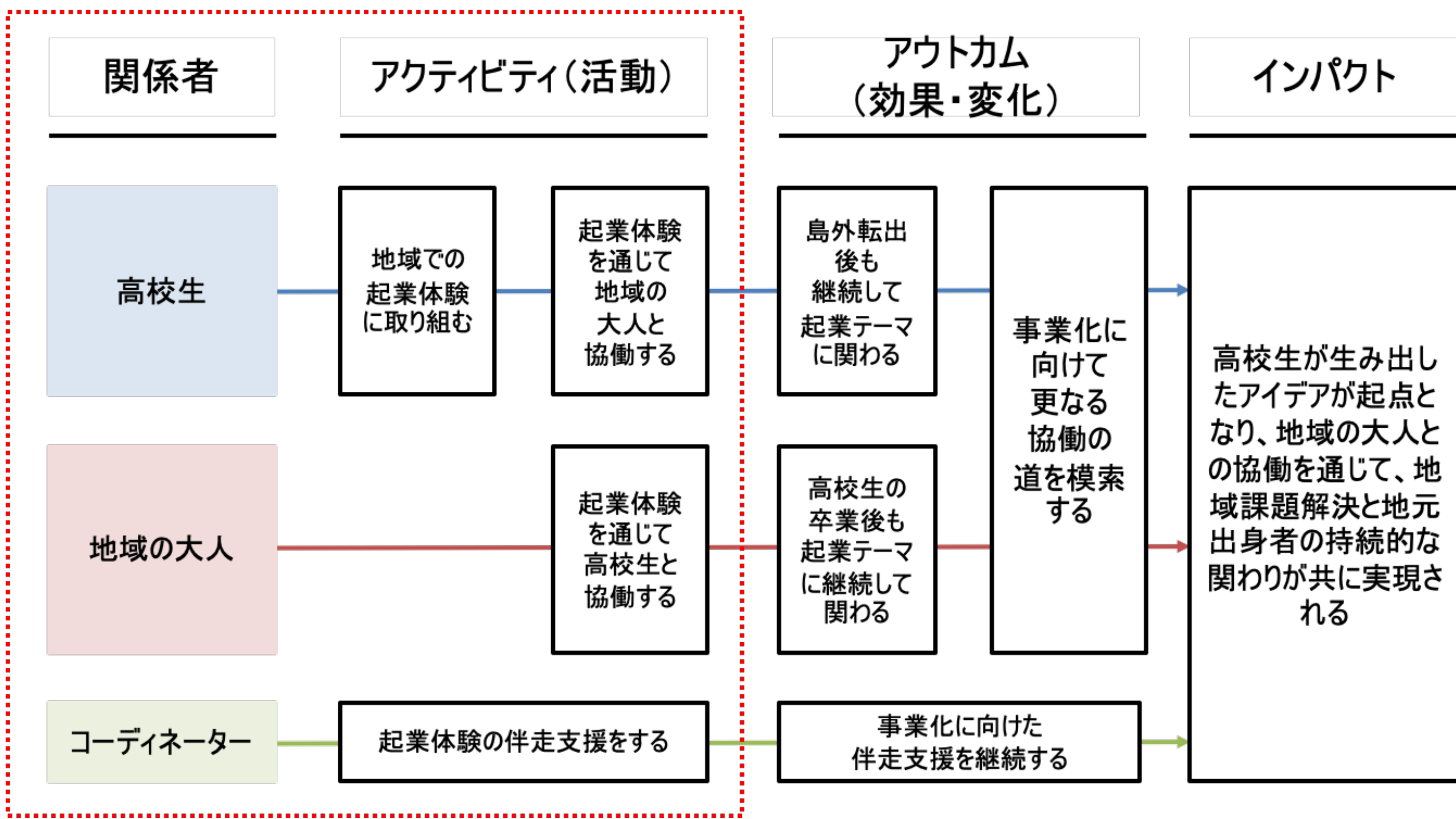
高校と地域の協働による
持続可能なプログラム運営

高校生の実践活動により
新たな事業価値を創出

6. 今後の展開

<今後のリサーチ展開>

1. 高校全生徒、教職員を対象とした追加アンケート調査
2. 地元出身の地域内起業経験者へのインタビュー調査&分析
3. プログラム参加者（高校生）への前後比較アンケート調査&分析
4. プログラム参加者（高校生）へのインタビュー調査&分析



地域での協働により、地元出身者の自己実現とその役割を担った地域にも資するモデル開発を目指す